

高松市立香西小学校

本校（全校児童 621 名）は、高松市西部に位置し、自然豊かな環境にある学校です。平成 22 年度は、望ましい人間関係を育むため、異学年による縦割り活動の指導に重点を置き、全教職員で集団指導に取り組んできました。

実践事例（関連項目：教育活動プラン④-2）

異年齢での活動を通して社会性を育てる

目的

異年齢集団活動でよりよい人間関係を築き、一人一人が互いの良さを認め合って生活する大切さを学びます。

内容

● 集団目標の設定

1 年間通して長縄跳びを実施し、異年齢集団における目標を設定しました。「長縄跳び大会」を開催することで、児童の連帯意識を高めました。

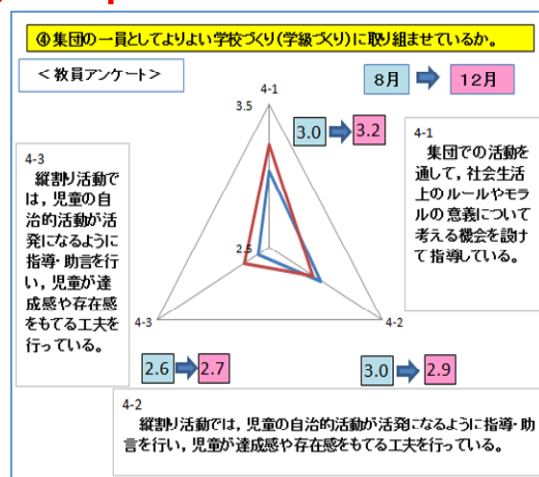


<縦割り班で長縄跳び練習>

● 児童・教職員へのアンケート

集団指導における教職員の意識調査、縦割り活動でのアンケートを実施し、問題点や改善点について検討しました。

そして、教職員が校務分掌をもとに縦割り活動の活性化に向けて意見を出し合いました。



<教職員の集団指導に対する意識調査>

成果

集団活動において、児童一人一人が自己の役割を自覚し、集団での達成感や存在感を高めることができました。集団生活でのルールやモラルも体験的に学んでいます。

様々な立場の者が協働体制で取り組む

目的

縦割り活動の活性化（集団育成）に向けて、全教職員が参画する協働体制作りをめざします。

内容

● 推進委員会での協議

推進委員会で校務分掌を中心に縦割り活動の運営について協議し、様々な視点から児童の集団育成（児童理解）について共通理解を図りました。

豊かな心部会（推進委員会）

（主な校務分掌）

- ・ 特別活動主任
- ・ 生徒指導主事
- ・ 人権同和主任
- ・ 清掃主任
- ・ 児童会担当者

● 子どもを見つめる委員会

毎月1回、現職教育の時間に「子どもを見つめる委員会」を開き、気になる児童を中心に全教職員で児童理解に努めました。

また、集団育成に関わる指導方法やスキル研修を行うなど、全教職員が共通理解・共通行動を図る場として位置付けました。

平成22年9月

集団の育成に向けて

月目標「心のこもったあいさつをしよう」の達成に向けて

目標 あいさつを通して集団スキル（人間関係スキル）を育成し、児童の社会性を育む。
・ あいさつの仕方を見つける。
・ 児童一人一人の自己表現力を高める。


あいさつの大切さを感じ取り、友達や先生とさわやかなあいさつかわすことができる。

手立て

- 元気な（さわやかな）あいさつができている子をモデルにして、よさを話し合う。
- 二人組であいさつを交わす練習を行う。
- 道徳の時間と関連させる。
- 「あいさつカレンダー」などを活用する。（7月の学校評価より）
- あいさつ運動での活躍を評価する。（自己有用性の育成）

「あなたの元気なあいさつで、先生も元気が出たよ！」
「あなたのあいさつはみんなを元気にしてくれるね！」など

教師の共通行動事項
・ 児童にすすんであいさつの手本を示しましょう。
・ 始業、終業のあいさつをきちんと行いましょう。
（やり直しもあり得ます。）
・ 朝のあいさつ運動の様子を見てみましょう。
（意外な発見があるかもしれません。）



<配布プリント>

成果

教員の縦割り活動（集団における人間関係づくり）に対する参画意識が高まり、様々な立場から縦割り活動を活性化する方法を話し合いました。

◆ 本校におけるその他の取組

- 縦割り活動の成果を運動会で発表することで、保護者や地域に発信し、理解を得ています。
- 児童の自己有用感を育むために児童会活動や学校行事の内容を見直しています。